

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学  
2019年度教育プログラムに関する  
自己点検・評価報告書

2021年5月

就実大学自己点検・評価・改善委員会  
就実短期大学自己点検・評価・改善委員会

## 就実大学・就実大学大学院・就実短期大学「2019年度教育プログラムに関する自己点検・評価報告書」について

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学では、「内部質保証の方針」、さらに就実大学学則第2条、就実大学大学院学則第3条、就実短期大学学則第2条に基づき、毎年、教育活動についての自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教育研究水準の向上と、就実大学学則第1条、就実大学大学院学則第2条、就実短期大学学則第1条に掲げられた目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動の状況について行うものである。

自己点検・評価の対象は、(1)「教育の質保証のための自己点検・評価活動」(アセスメント・ポリシーに基づく教育効果・学修成果のアセスメント)、(2)「中期計画に基づく教育研究活動全体の自己点検・評価活動」である。(2)については、別紙にて公表する。この報告書は(1)「教育の質保証のための自己点検・評価活動」(アセスメント・ポリシーに基づく教育効果・学修成果のアセスメント)についての報告である。

教育の質保証のための自己点検・評価の対象期間は、2019年4月1日から2020年3月31日までとなる。各学部・学科・研究科では、この期間に実施した教育活動を対象に、アセスメント・ポリシーに基づき、学生の学修成果及び教育プログラムの有効性等について検証を行った。さらに、各学部・学科・研究科における教育プログラムレベルの自己点検・評価に基づいて、全学レベルでの点検・評価を実施した。

就実大学自己点検・評価・改善委員会  
就実短期大学自己点検・評価・改善委員会

## 就実大学・就実大学大学院・就実短期大学 2019年度教育プログラムに関する自己点検・評価報告書

### <全体の総括（大学）>

本学では、2019年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、各学部・学科の各DP（ディプロマ・ポリシー）項目について卒業年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2019年度の各学部・学科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2019年度卒業生は十分な質的水準を満たして卒業しており、また入学後2年終了時点（薬学部は入学後4年終了時点）の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達していたことから、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。

### <各学部・学科の点検・評価の概要>

#### ○人文科学部

人文科学部では、「歴史、文化、人間に関する理解と、修得した知識を基に、現代社会の現状を論理的に捉えることができ、更なる充実、発展のために社会に貢献することができる」をはじめ、5つの学部DP項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムに対する高い満足度と教育効果を認めることができた。また、在生については2年生の学修状況を測定し、順当に能力が養成されていると推測している。ただし、卒業年次生・在生ともにデータが不足している部分もあるため、今後対応が求められる。

#### ・表現文化学科

表現文化学科では、「日本の言語と文化について幅広い学識と理解を身につけ、その学識を活かして社会及び文化の諸問題を解決できる」をはじめ、3つの学科DP項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在生については2年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。ただし、成績評価の分布に偏りが見られることが確認できたため、是正を図る予定である。

#### ・実践英語学科

実践英語学科では、「ビジネスや教育の現場で単に英語を運用するだけでなく、英語と日本語の言語的差異、および各言語圏の社会・文化・思想・価値観の差異を踏まえて、英語を実践的に駆使することができる」をはじめ、3つの学科DP項目を設定しており、それぞ

れについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在學生については2年生の学修状況を、累積 GPA 等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。ただし、卒業年次生・在學生ともにデータが不足している部分もあるため、今後対応が求められる。

#### ・総合歴史学科

総合歴史学科では、「世界の諸地域における歴史の理解と修得した知識を基に、現代世界の状況を正確に把握し、社会の発展のために貢献することができる」をはじめ、4つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在學生については2年生の学修状況を、累積 GPA 等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。ただし、卒業年次生・在學生ともにデータが不足している部分もあるため、今後対応が求められる。

#### ○教育学部

教育学部では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育に関する確かな知識と技能をもち、子どもを「教え導き考えさせる」ことと「受容し支えケアする」に専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケート結果、各免許取得率等を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在學生については2年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、2022年度のカリキュラムの一部改訂に向けた検討を順調に進めている。

#### ・初等教育学科

初等教育学科では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育に関する確かな知識と技能をもち、子どもを「教え導き考えさせる」ことに専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、免許取得率等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在學生については2年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、2022年度のカリキュラムの一部改訂に向けた検討を順調に進めている。

#### ・教育心理学科

教育心理学科では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育心理・養護教育・特別支援教育に関する確かな知識と技能をもち、カウンセリング・マインドをもって子どもを「受容し支えケアする」ことに専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、卒業時アンケート結果、養護教諭免許状・特別支援学校教諭免許状の取得者数等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、2022年度のカリキュラムの一部改訂に向けた検討を順調に進めている。

#### ○経営学部

経営学部では、「社会でビジネスプロフェッショナルとして責任を果たせること」をはじめ、3つの学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、卒業時アンケート結果等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、各科目の内容充実を図るとともに、2022年度のカリキュラムの改訂に向けた検討を順調に進めている。

#### ○薬学部

薬学部では、「豊かな人間性と教養、倫理観を有し、医療の担い手としての薬剤師の義務と法令を遵守できる」をはじめ、10の学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、薬学共用試験結果等を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については4年生の学修状況を単位取得状況と、ベンチマークとする科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、進級率向上及び学生指導の充実を図るため、担任以外にも各学年に学年主任を置き、学年主任と学修支援担当者からなる、学修支援委員会で初年次教育の見直しや学修支援に関わる検討を行うなど効果的な学修状況の改善に注力している。

### <全体の総括（大学院）>

本学では、2019年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、各研究科の各 DP 項目について修了年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2019年度の各研究科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2019年度修了生は十分な質的水準を満たし卒業しており、また在学生の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達しており、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。

### <各研究科による点検・評価の概要>

#### ○人文科学研究科

人文科学研究科では、「研究に関わる情報を十分に収集し、適切に整理する能力」をはじめ、4つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。「修士論文評価の基準」「単位取得状況」等を中心に学修成果を測り、十分な教育効果を認めることができた。その他の問題についても、人文科学研究科改善・検討委員会を設置し検討を進めている。

#### ○教育学研究科

教育学研究科では、「深い学問的知識と高度な研究能力」をはじめ、2つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。総単位取得数、修士論文審査報告書、修了判定会議資料、臨床心理士・公認心理師受験資格の取得状況等に基づいて学修成果を測り、十分に到達目標に達し、資格取得の条件も満たしているとして、研究科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、改善・向上に向けた取組み計画として、2021年度以降のコースの科目の点検・整理を行っている。

#### ○医療薬学研究科

医療薬学研究科では、「自ら諸問題を見出し、科学的根拠に基づいた対応ができ、地域における医療の中核を担うことができる」をはじめ、4つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。学位論文審査結果等に基づいて学修成果を測り、研究科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また在学生については大学院 1-2 年生の学修状況を、単位取得状況等を基に測定し、順調に学修が進んでいると推測している。

### <全体の総括（短期大学）>

本学では、2019 年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、3 つの短期大学 DP と各学科の各 DP 項目について卒業年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2019 年度の各学科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2019 年度卒業生は十分な質的水準を満たして卒業しており、また入学後 1 年終了時点の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達しており、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。

#### ・幼児教育学科

短期大学幼児教育学科では、「保育を取り巻く環境や動向を理解し、問題解決に向けて知識を活かすことができる」をはじめ、4 つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、ベンチマークとする科目の成績分布、幼稚園免許状・保育士資格・社会福祉主事任用資格の取得者数を基に測定し、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については入学後 1 年終了時点の学生の学修状況を、実習の基準科目の単位取得状況等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、さらに充実したカリキュラムの改訂に向けた検討を順調に進めている。

#### ・生活実践科学科

短期大学生生活実践科学科では、「豊かな人間性と社会性、倫理性を支える幅広い教養を身につけている」をはじめ、6 つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、ベンチマークとする科目の成績分布、卒業時アンケート結果等を基に測定し、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については入学後 1 年終了時点の学生の学修状況を、単位取得状況等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。

以上